

授業科目名：地域スポーツ支援学特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：山田 力也 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
1）地域（社会）におけるスポーツの意義と役割について理解する。 2）国および地方行政におけるスポーツ政策について理解する。 3）地域における運動・スポーツ活動の実態と課題を理解する。 4）地域における運動・スポーツ支援における実態と問題を理解する。 5）人々の豊かな地域生活につながる運動・スポーツ支援のあり方について考察できる。			
授業の概要			
地域（社会）におけるスポーツの意義と役割、生涯スポーツの重要性について理解を深める。 そのうえで、スポーツの支援の現状や課題について、国および地域行政のスポーツ政策や具体的取り組みや関係機関（日本スポーツ協会、レクリエーション協会、日本パラスポーツ協会等）の取り組み、対象別（子どもから高齢者、女性、障がい者等）のスポーツ活動の実態などから整理し、地域におけるスポーツの支援のあり方について教授する。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション			
第2回：社会におけるスポーツの意義と役割			
第3回：生涯スポーツと支援について			
第4回：わが国のスポーツ関連施策（1）（国レベル）			
第5回：わが国の地域スポーツの支援について（1）（国レベル）			
第6回：わが国のスポーツ関連施策（2）（地方行政レベル）			
第7回：わが国の地域スポーツの支援について（2）（地方行政レベル）			
第8回：わが国の地域スポーツの支援について（3）（総合型地域スポーツクラブ）			
第9回：地域における運動・スポーツ支援の実践事例（1）（子ども）			
第10回：地域における運動・スポーツ支援の実践事例（2）（学校運動部活動）			
第11回：地域における運動・スポーツ支援の実践事例（3）（青年・中年層）			
第12回：地域における運動・スポーツ支援の実践事例（4）（女性）			
第13回：地域における運動・スポーツ支援の実践事例（5）（高齢者）			
第14回：地域における運動・スポーツ支援の実践事例（6）（障がい者）			
第15回：まとめ			
定期試験は実施しない。			
テキスト			

特に指定せず、毎講義ごとに資料、ワークシートを配布する。
参考書・参考資料等 変わりゆく日本のスポーツ、大谷義博監修、西村秀樹編集、世界思想社
学生に対する評価 レポート内容（60％）、授業での発表（20％）、授業の受講態度（10％）、 授業への参加度（10％）

授業科目名： 健康運動科学特論		教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：近藤 芳昭 担当形態： 単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標				
① 知識・理解：身体運動時の筋肉や呼吸循環器系等のメカニズムが説明できる。身体運動と健康の関係が説明できる。健康づくり運動に関する実務について理解し説明できる。				
② 思考・判断：運動やスポーツを通した生活支援のあり方について思考できる。				
③ 関心・意識・態度：健康づくりへの関心をもち、実践できる態度で取り組むことができる。				
④ 技能・表現：健康づくりのための運動指針や運動基準等を活用し、実践的生活支援ができる。				
授業の概要				
健康寿命の延伸とともに生きがいを持った健やかな生活を送る上で、日ごろの健康管理は重要となる。授業では、身体運動の視点から健康について理解を深めるとともに運動やスポーツを通した実践的生活支援のあり方について考察する。そのために、身体運動のメカニズムを理解し、生活習慣病との関係を解説する。さらに、健康産業施設における実務を理解することで、地域における健康づくりの取り組みを学ぶ。				
授業計画				
第1回：身体運動と健康づくり ―現代生活における運動不足の実態とその影響―				
第2回：運動時の骨格筋の働きについて ―筋肉の種類と収縮のメカニズム―				
第3回：運動のエネルギー供給機構について				
第4回：運動と栄養 ―運動時の各栄養素の役割、運動と水分―				
第5回：運動時の呼吸器系の働きについて ―呼吸調節とガス交換―				
第6回：運動時の循環器の働きについて ―心機能と循環調節―				
第7回：有酸素運動と無酸素運動				
第8回：健康度測定① ―最大酸素摂取量の測定―				
第9回：健康度測定② ―その他の運動能力の測定―				
第10回：運動処方の内容とその実際				
第11回：健康づくりのための運動指針と運動基準				
第12回：生活習慣病と運動 ―高血圧症、糖尿病と運動―				
第13回：生活習慣病と運動 ―肥満、骨粗鬆症と運動―				
第14回：地域における健康づくりのための運動実践および健康産業における実務について				

第15回：身体運動を通しての生活支援について 定期試験は実施しない。
テキスト 必要に応じて資料を配付する。
参考書・参考資料等 参考図書：中野昭一著編、図説・運動の仕組みと応用、医歯薬出版・九州大学健康科学センター編集、健康と運動の科学、大修館書店
学生に対する評価 レポート試験（70%）、授業態度及び授業への参加度（30%）

授業科目名： 健康スポーツ医学特論		教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：庄野 菜穂子 担当形態：単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標				
1. 運動刺激に伴う急性反応についての先端的知見を、健常者、有疾患者、障がい者、競技者ごとに整理する。				
2. 運動継続に伴う慢性適応についての先端的知見を、健常者、有疾患者、障がい者、競技者ごとに整理する。				
3. 運動によって発生しうる健康障害についての先端的知見を、内科系、外科系に分けて整理する。				
授業の概要				
健康・体力の維持増進や疾病の予防・治療などの目的等で身体活動（スポーツ・運動・生活活動）を必要とする対象者は、幅広い年齢層に及び、かつ健常者から有疾患者・障がい者・競技者まで、その身体特性は多様である。しかし、身体活動の実施方法や実施環境、栄養摂取状況・睡眠・服薬状況等によっては、健康障害を引き起こすリスクもあり、医療従事者との連携が必要となる場合もある。連携や支援を行うにあたり、運動刺激が生体に及ぼす影響を定量的・定性的に正しく理解し、的確に説明できることが求められる。ここでは、運動刺激による急性・慢性の各種影響について、①効果と弊害の両視点から、②対象者の特性によってどのような違いがあるか、先端的知見を整理するとともに、③支援する際に注意すべき点は何か、医科学的に掘り下げながら理解を深める。				
授業計画				
第1回：オリエンテーション、授業計画について				
第2回：1-1. 運動刺激に対する急性反応に関する先端的知見（健常者）				
第3回：1-2. 運動刺激に対する急性反応に関する先端的知見（有疾患者）				
第4回：1-3. 運動刺激に対する急性反応に関する先端的知見（障がい者）				
第5回：1-4. 運動刺激に対する急性反応に関する先端的知見（競技者）				
第6回：1-5. 運動刺激に対する急性反応についてのまとめ				
第7回：2-1. 運動継続に伴う慢性適応に関する先端的知見（健常者）				
第8回：2-2. 運動継続に伴う慢性適応に関する先端的知見（有疾患者）				
第9回：2-3. 運動継続に伴う慢性適応に関する先端的知見（障がい者）				
第10回：2-4. 運動継続に伴う慢性適応に関する先端的知見（競技者）				
第11回：2-5. 運動継続に伴う慢性適応についてのまとめ				
第12回：3-1. 運動で発生しうる急性障害に関する先端的知見（内科系）				

第13回：3-2. 運動で発生しうる慢性障害に関する先端的知見（内科系） 第14回：3-3. 運動で発生しうる急性傷害（外傷）に関する先端的知見（外科系） 第15回：3-4. 運動で発生しうる慢性障害に関する先端的知見（外科系） 定期試験は実施しない
テキスト 適宜紹介
参考書・参考資料等 適宜紹介
学生に対する評価 レポート内容（30%）、授業態度（15%）、授業での発表（40%）、 授業への参加度（10%）

授業科目名： スポーツ心理学特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：甲木秀典 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
本講義では、運動スポーツ実施による心理的効果や競技力向上やスポーツ指導のための心理学的視点からみた方法について解説し、以下の目標を設定する。			
①学校体育が児童生徒の心理的側面の発達に及ぼす影響について理解できる			
②心理的スキルトレーニングの技法をスポーツ場面に応用できる			
③スポーツ・運動の心理的効用について理解し、説明できる			
授業の概要			
スポーツ活動や運動に取り組む多くの人の中でスポーツ心理学の重要性に対する認識が高まってきている。本講義では、運動やスポーツの実践過程を心理学的に理解しながら、運動が上手くなり、楽しく実施できる環境づくりや、そこでの行動変容について、さらには運動を継続することの意味等についてもディスカッションを踏まえながら検討していく。また、競技力の向上やスポーツ指導のために応用する方法について解説する。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション(体育・スポーツの心理学とは)			
第2回：運動・スポーツの心理的効用			
第3回：運動・スポーツの好き・嫌いが生じる心理的背景の理解と対処法①（運動好き・嫌いのメカニズムについて）			
第4回：運動・スポーツの好き・嫌いが生じる心理的背景の理解と対処法②（運動への好意的態度を養うための心理的方略について）			
第5回：スポーツにおける外発的動機づけと内発的動機づけ			
第6回：心理的スキルトレーニングとマネジメント①（スポーツと心の関係について）			
第7回：心理的スキルトレーニングとマネジメント②（心理的スキルトレーニングの実際）			
第8回：心理的スキルトレーニングとマネジメント③（選手の心理的サポートの実際）			
第9回：ジュニアのスポーツ心理①（子どものスポーツ有能感について）			
第10回：ジュニアのスポーツ心理②（子どものスポーツにおける動機づけ雰囲気について）			
第11回：チームへの心理的サポート①（リーダーシップ論について）			
第12回：チームへの心理的サポート②（チームビルディングについて）			
第13回：運動学習の理論的背景とそこから導かれる練習・指導の原則			
第14回：効果的な運動学習指導の展開			
第15回：まとめ			

定期試験は実施しない
テキスト 中学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省）、高等学校学習指導要領（平成30年3月告示 文部科学省） 中学校学習指導要領解説 保健体育編（平成29年7月 文部科学省）、高等学校学習指導要領解説 保健体育編（平成30年7月 文部科学省）
参考書・参考資料等 適宜資料の配布または指示を行う。
学生に対する評価 レポート試験(60%)、学生の発表(30%)、授業への参加度（10%）

授業科目名： スポーツ生理学特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 山口 裕嗣 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
1) スポーツ生理学の基礎的知識について理解し、説明できる。 2) 健康・体力向上のためのスポーツ生理学的知識について理解し、説明できる。 3) 競技力向上のためのスポーツ生理学的知識について理解し、説明できる。			
授業の概要			
運動に対する身体の応答や適応のしくみを理解するためには、生理学の他これを取り巻く関連領域の専門的知識も身につけておく必要がある。スポーツ生理学および関連領域における最新の研究成果を交えながら、生理学の理解に必要な基礎的知識のもと、フィットネスやパフォーマンス向上を支えるスポーツ生理学の専門的知識について解説する。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション 第2回：スポーツ生理学の基礎①（骨格筋の構造と機能） 第3回：スポーツ生理学の基礎②（運動時の代謝） 第4回：スポーツ生理学の基礎③（運動時の循環応答） 第5回：スポーツ生理学の基礎④（運動時の換気応答） 第6回：スポーツ生理学の基礎⑤（運動時の体温調節） 第7回：健康・体力向上のためのスポーツ生理学①（心肺機能の評価） 第8回：健康・体力向上のためのスポーツ生理学②（健康と体力改善のための運動） 第9回：健康・体力向上のためのスポーツ生理学③（慢性疾患患者のための運動） 第10回：健康・体力向上のためのスポーツ生理学④（高齢者のための運動） 第11回：競技力向上のためのスポーツ生理学①（パフォーマンスに影響を及ぼす要因） 第12回：競技力向上のためのスポーツ生理学②（パフォーマンスの評価） 第13回：競技力向上のためのスポーツ生理学③（運動と環境） 第14回：競技力向上のためのスポーツ生理学④（エルゴジェニックエイド） 第15回：まとめ 定期試験は実施しない。			
テキスト			
授業中に適宜資料を配付する。			

参考書・参考資料等
パワーズ運動生理学 -体力と競技力向上のための理論と応用- (メディカル・サイエンス・インターナショナル)
学生に対する評価
毎回の授業の最後に提出する小レポート(60%)、授業内での発表内容(40%)

授業科目名： スポーツ栄養学特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：堀田 徳子 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 1) スポーツ選手の基本の食事が理解できる 2) ライフステージに応じた食事のとり方について理解できる 3) 競技別、目的別に応じた食事のとり方について理解できる 4) 相対的エネルギー不足について理解できる			
授業の概要 スポーツをする上で、身体を動かすためのエネルギーの確保、身体づくりのためのたんぱく質の確保、コンディショニングのためのビタミン・ミネラルの確保等、食事は重要な要素である。しかし、食事が大切だと分かっているにもかかわらず、実際にどのように摂取すればいいのか、指導者としてどのように教育をすればいいのか、現場では困る場面が散見される。この講座では、栄養士・管理栄養士でなくても、どのように食事のことを理解し、実践するのか。また、どのように教育していくとうまくいくのかを、実例を通じて学んでいく。			
授業計画 第1回：オリエンテーション、スポーツ選手の食事の基本について 第2回：栄養素の各論（糖質、脂質、たんぱく質、ビタミン、ミネラル）について 第3回：ジュニアアスリートの食事 第4回：競技別の食事（瞬発系、球技系、持久系） 第5回：目的別（増量）の食事のとり方 第6回：目的別（減量）の食事のとり方 第7回：目的別（貧血、熱中症予防、疲労骨折）の食事のとり方 第8回：相対的エネルギー不足、女性アスリートの三主徴 第9回：試合期の食事 第10回：食事調査の方法、教育方法 第11回：アンチドーピングとサプリメント 第12回：演習（フィールドでの課題解決型学習）①（対象設定、アセスメント） 第13回：演習（フィールドでの課題解決型学習）②（アセスメント後の分析・評価） 第14回：演習（フィールドでの課題解決型学習）③（改善点の提案、行動目標の設定） 第15回：課題解決型学習の発表 定期試験は実施しない。			

テキスト スポーツ・運動と栄養（東京教学社）
参考書・参考資料等 適宜紹介
学生に対する評価 レポート内容（50％）、授業での発表（20％）、授業の受講態度（20％）、授業への参加度（10％）

授業科目名： スポーツバイオメカニクス学特論		教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：市川 浩
				担当形態：単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標				
スポーツに特化したバイオメカニクスとその活用法を学ぶ。このために以下の3つの到達目標を据える。				
1) ヒトの身体構造を把握し、優れた身体運動の仕組みを力学の視点から説明できる。				
2) スポーツバイオメカニクスで用いられる測定手法を実施し、量的な分析や評価ができる。				
3) 自身が関与するスポーツの運動技能修得や競技力向上のためのスポーツ支援活動を提案できる。				
授業の概要				
バイオメカニクスは、生体（バイオ）の力学（メカニクス）現象を扱う研究領域である。本授業では、これをスポーツなどの身体運動に特化したスポーツバイオメカニクスを扱い、スポーツ技術など優れた身体運動の仕組みについて具体例を交え解説する。また、技の上達や競技力向上のための身体運動測定法や分析・評価方法を紹介することで、スポーツ支援活動に応用できる能力を養う。				
授業計画				
第1回：スポーツにおけるバイオメカニクスの役割				
第2回：スポーツバイオメカニクスの研究				
第3回：スポーツのパフォーマンス				
第4回：定量的な評価				
第5回：映像による身体運動の測定				
第6回：センサを用いた運動計測				
第7回：力やトルクの計測と評価				
第8回：シミュレーションによる評価				
第9回：データベースによるデータの蓄積				
第10回：バイオメカニクスデータのフィードバック				
第11回：バイオメカニクスとトレーニング科学				
第12回：バイオメカニクスとコーチング				
第13回：スポーツ支援におけるバイオメカニクスの役割				
第14回：個別の事例への提案				
第15回：個別の事例への討論				

定期試験は実施しない。
テキスト 指定しない
参考書・参考資料等 バイオメカニクスー身体運動の科学的基礎一、金子公宥・福永哲夫 編、杏林書院
学生に対する評価 授業中のプレゼンテーションと議論（40％）、レポート課題（60％）

授業科目名： 運動処方特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 大川 裕行、中村 雅俊 担当形態：オムニバス
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
・身体活動や運動のリスク、有益性を理解する。 ・身体活動と体力に関する重要な用語を理解する。 ・運動不足による疾患の予防や治療における身体活動の役割を理解する。 ・最新の身体活動に関する勧告の基礎となる公衆衛生学的な展望について理解する。 ・運動に関連した合併症の一次予防ならびに二次予防のために発生頻度や重症度軽減のための勧告を理解する。			
授業の概要			
身体活動や運動のリスク、有益性に関する最新の情報を提供する。そのために、まず身体活動と体力に関する重要な用語を定義する。 運動不足による疾患の予防や治療における身体活動の役割の背景となる身体活動に関する勧告の基礎となる公衆衛生学的な展望について理解を深める。 運動に関連した合併症の一次予防ならびに二次予防のために発生頻度や重症度軽減のための勧告を理解する。			
授業計画			
第1回：「運動処方」について（大川 裕行） 第2回：身体活動に伴う有益性とリスク（大川 裕行） 第3回：健康スクリーニングとリスク層別化の準備（大川 裕行） 第4回：運動負荷試験前の体力およびリスク評価（大川 裕行） 第5回：健康関連体力テストおよびその解釈（大川 裕行） 第6回：運動負荷試験の臨床（大川 裕行） 第7回：運動負荷試験による臨床データの解釈（大川 裕行） 第8回：運動処方の一般的原則（中村雅俊） 第9回：健常者と特殊な状況にあるヒトの運動処方（中村雅俊） 第10回：心疾患患者の運動処方（中村雅俊） 第11回：その他の臨床疾患患者の運動処方Ⅰ（関節炎、悪性腫瘍、糖尿病など）（中村雅俊） 第12回：その他の臨床疾患患者の運動処方Ⅱ （高血圧症、メタボリックシンドローム、骨粗鬆症など）（中村雅俊） 第13回：救急管理（中村雅俊）			

第14回：心電図（ECG）の解釈（中村雅俊） 第15回：まとめ（大川 裕行・中村雅俊） 定期試験は実施しない。
テキスト 「運動処方指針」監訳日本体力医学会体力科学編集委員会．南江堂． ISBN978-4-524-26216-8
参考書・参考資料等 必要に応じて別途資料の準備を指示する
学生に対する評価 レポート内容（10％）、授業での発表（60％）、授業の受講態度（10％）、 授業への参加度（20％）

授業科目名： 地域スポーツ支援実践研究	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 6単位	担当教員名：近藤 芳昭、 山田 力也、市川 浩、 甲木 秀典、山口 裕嗣 担当形態：クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
1) 自らの研究テーマに即した地域スポーツ支援の場におけるフィールドワーク目的と計画を設定できる。			
2) 地域におけるスポーツ支援の実態を理解し、現状と課題を整理できる。			
3) 地域におけるスポーツ支援の課題解決に向けた今後のあり方について考察できる。			
4) 実践研究で得られた経験と知識をもとに、地域におけるスポーツ支援について議論することができる。			
5) 実践研究の成果を研究報告書としてまとめる、発表することができる。			
授業の概要			
地域におけるスポーツ支援の実態について、支援する側の立場から実際に体験・思考することでその現状と課題を整理し、今後のスポーツ支援のあり方について考察する。具体的には、受講者の希望する場（行政のスポーツ担当部署や各種スポーツ関係機関・団体、健康医療施設・研究所、総合型地域スポーツクラブ、フィットネスクラブ等）において、実践研究の目的と計画を明確にしたうえで5週間程度のフィールドワークを行い、考察内容とまとめ報告（発表）する。なお、受講生が実践研究を行うスポーツ支援の場と研究分野が適合する教員が指導を担当する。			
授業計画			
【事前指導】オリエンテーション			
【事前指導】実践研究の目的の確認と修正			
【事前指導】実践研究先の検討と選定			
【事前指導】実践研究計画の確認と修正			
※10日間（1日8時間を基本とする）の実践研究の実際			
【事中指導】経過報告と今後の予定確認			
※15日間（1日8時間を基本とする）の実践研究の実際			
【事後指導】実践研究成果のまとめ資料の確認と修正			
【事後指導】実践研究の報告（発表）資料の確認と修正			
【事後指導】実践研究の報告（発表）			
定期試験は実施しない。			

テキスト 特に指定せず、受講者のフィールドワーク先に応じた資料を適宜配布する。
参考書・参考資料等 特に指定しない。
学生に対する評価 実践研究の実際（80％）、成果発表（10％）、報告書（10％）

授業科目名： 学校保健体育支援学 特論Ⅰ		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 栗原 淳 担当形態： 単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 中学校及び高等学校学習指導要領に示された保健の学習内容と求められる資質能力について、健康科学やスポーツ科学の学問領域と関連させて理解を深めるとともに、思考力・判断力や実践力を身につける保健教育のあり方を理解する。また健康課題解決能力（ライフスキル）の習得と授業改善能力の向上を目指す。				
授業の概要 この授業では中学生や高校生の現代的健康課題解決に向けて主に中学校保健体育科の「保健分野」及び、高等学校の「科目保健」における保健学習の重要性を理解し、生徒が生涯を通じて健康で安全な生活習慣獲得のために必要な資質・能力を身につけられる教材研究の進め方や授業づくり、そして授業方法と授業評価、授業改善の方法について学ぶ。				
授業計画 第1回：保健教育の内容とその構成原理について（中学校学習指導要領に基づく目標と内容） 第2回：保健教育の内容とその構成原理について（高等学校学習指導要領に基づく目標と内容） 第3回：保健教育の内容とその構成原理について（保健学習の系統性と指導上の留意点） 第4回：楽しい保健授業の展開方法とその技術（授業の構成要素と展開方法） 第5回：楽しい保健授業の展開方法とその技術（典型教材と教材研究の必要性、進め方） 第6回：楽しい保健授業の展開方法とその技術（ICTを活用した指導の工夫） 第7回：実践力につなげる効果的な保健教育の進め方（カリキュラムマネジメントと教育課程編成） 第8回：実践力につなげる効果的な保健教育の進め方（教科間の連携と教科横断的展開） 第9回：実践力につなげる効果的な保健教育の進め方（ヘルス・プロモーティング・スクールの展開） 第10回：ライフスキルを活用した保健教育の進め方（ヘルスプロモーションとライフスキルの理解） 第11回：ライフスキルを活用した保健教育の進め方（中学校における先進実践授業事例の研究） 第12回：ライフスキルを活用した保健教育の進め方（高等学校における先進実践授業事例の研究） 第13回：保健教育における授業評価と授業改善カンファレンスの実際（中学校の授業実践から） 第14回：保健教育における授業評価と授業改善カンファレンスの実際（高等学校の授業実践から） 第15回：保健の授業研究のまとめと総括				
テキスト 中学校学習指導要領保健体育編（文部科学省）2021年3月 文部科学省告示 高等学校学習指導要領保健体育編（文部科学省）2021年3月 文部科学省告示 改訂「生きる力」を育む中学校保健教育の手引き（文部科学省）2020年3月 改訂「生きる力」を育む高等学校保健教育の手引き（文部科学省）2021年3月				

参考書・参考資料等

学生に対する評価

プレゼンテーションとディスカッションでの発言内容(50%)及び、最終レポート(50%)により総合的に評価する。

授業科目名：学校保健 体育支援学特論Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：中島 慎一 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
中学校及び高等学校学習指導要領に示された体育の学習内容と求められる資質能力について、その背景となる健康科学やスポーツ科学の学問領域と関連させて理解を深めるとともに、以下の具体的到達目標を目指す。 〈知識・理解〉 ・中高における体育学習の目標・内容の全体構造と系統性の理解 ・現代社会における運動・スポーツの課題解決に必要な体育教育のあり方・指導内容・方法の理解 〈技能・表現〉 ・運動・スポーツの課題解決能力（ライフスキル）の習得と授業への活用ができる ・健康と直結する生活実践につながる授業改善（カンファレンス）ができる ・タブレットなどICTを活用した体育の授業資料作成ができる 〈態度・志向性〉 ・生徒の運動・スポーツ課題解決に向け、体育教育に積極的に取り組むことができる ・生徒の体力や技能の向上や教員の授業力向上に貢献できる 〈行動経験・創造的思考力〉 ・授業づくりに自由な創造的発想や思考力を働かせることができる ・多様な学びの経験を次に生かすことができる			
授業の概要			
この授業では中学生や高校生の運動課題解決に向けて主に中学校保健体育科の「体育分野」及び、高等学校の「科目体育」における体育学習の重要性を理解し、生徒が生涯を通じて運動・スポーツに親しむために必要な資質・能力を身につけられる教材研究の進め方や授業づくり、そして授業方法と授業評価、授業改善の方法について学ぶ。特に体育学習が効果的に計画・実施されるよう講義は演習形式で行い、学校現場で開催される公開授業研究会や授業カンファレンスへの参加を含め、より教員としての授業実践力を養うことをねらいとする。			
授業計画			
第1回：体育教育の内容とその構成原理について（学習指導要領に基づく目標と内容）			
第2回：体育教育の内容とその構成原理について（体育学習の系統性と指導上の留意点）			
第3回：楽しい体育授業の展開方法とその技術（体育学習担当教員としての力量形成）			

第4回：楽しい体育授業の展開方法とその技術（授業の構成要素と展開方法）
 第5回：楽しい体育授業の展開方法とその技術（ICTを利活用した指導の工夫）
 第6回：教材研究と教材づくり（典型教材と教材さがし、教材づくり）
 第7回：教材研究と教材づくり（ライフスキルを活用した教材研究）
 第8回：授業案の作成（3年間を見通した年間指導計画の立案と単元計画）
 第9回：授業案の作成（学習指導案の考え方と作成）
 第10回：授業案の作成（授業評価の考え方と進め方）
 第11回：模擬授業の実施（模擬授業テーマ：体づくり運動）
 第12回：模擬授業の実施（模擬授業テーマ：ベースボール型種目）
 第13回：模擬授業の実施（模擬授業テーマ：ネット型種目）
 第14回：模擬授業の実施（模擬授業テーマ：武道）
 第15回：模擬授業のまとめと体育の授業研究（近隣中学校等の先進実践事例に学ぶ）
 定期試験は実施しない。

テキスト

中学校学習指導要領保健体育編（文部科学省）2021年3月文部科学省告示
 高等学校学習指導要領保健体育編（文部科学省）2021年3月文部科学省告示
 中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 保健体育編 体育編 平成29年7月
 高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 保健体育編 体育編 平成30年7月

参考書・参考資料等

学生に対する評価

小テスト（20%）、レポート内容（40%）、授業での発表（40%）

授業科目名： 身体教育特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：松本大輔 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
1）社会や文化を背景として現代の身体に関する問題を理解する。 2）身体教育における理論を理解することができる。 3）身体に対する理解を深めると同時に自らの教育観やスポーツ観を実践を反省的に振り返ることができる。 4）自らの関心に応じて適切な資料を収集、整理し発表することができる。 5）身体教育に関する問題を論理的思考を通して問題解決の方向を理論的に提示することができる。 6）地域における身体教育における生活上、教育上の課題を把握し課題解決のための方策を考えることができる。			
授業の概要			
これからの身体に関する問題は単純な健康の問題にとどまらず、社会や文化の問題としても捉えていく必要がある。本講義では、身体教育に関して、目的理解としての原理的理論、対象理解としての社会学的理論、方法理解としての教育学的理論について学ぶ。以上の観点から身体教育に関する問題を検討する事で、理論と実践を結び付けるような教育者・スポーツ支援者としての資質を養う。また講義で取り扱った中から、知識を深めたいと考えた内容について専門分野の論文収集を行い、整理し、発表、討議する。これらを通して今後の情報化、複雑化する社会において身体教育の理解に対して、より論理的に高度な知見を深める。			
授業計画			
第1回：生活環境の変化と身体教育にかかわる諸問題について 第2回：身体の社会・文化的理解と身体教育の原理的理解 第3回：プレイ論による身体教育の原理的・対象理解 第4回：スポーツと身体教育の関係に関する社会的・原理的理解 第5回：発達・発育に関する理解による身体教育の対象・方法理解 第6回：学校教育における身体教育の歴史的変遷からみる目的目標論 第7回：学校教育における身体教育の内容論 第8回：学校教育における身体教育の学習観と学習論 第9回：生涯スポーツ社会へ向けてスポーツ観を考える 第10回：文献輪読と討議①学校教育と身体教育について目的理解を深める			

第11回：文献輪読と討議②スポーツの文化的価値について深める
 第12回：文献輪読と討議③身体教育の原理的理解を深める
 第13回：文献輪読と討議④身体教育の社会的理解を深める
 第14回：文献輪読と討議④身体教育における研究の方法的理解を深める
 第15回：広域科学としてのスポーツ科学と身体教育
 定期試験

テキスト

「遊び」から考える体育の学習指導（松田恵示 著 創文企画）

参考書・参考資料等

中学校学習指導要領（平成29年7月告示 文部科学省）、高等学校学習指導要領（平成30年7月告示、文部科学省）、中学校学習指導要領解説 保健体育編（平成29年7月告示 文部科学省）、高等学校学習指導要領解説 保健体育編（平成30年7月告示 文部科学省）

学生に対する評価

授業レポート（20%）、受講者の発表内容（40%）、レポート試験（40%）

授業科目名： 幼児運動・スポーツ 支援学特論		教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：竹森 裕高 担当形態：単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標				
1）幼児期における運動・スポーツの現状を把握し、その意義を理解し、説明することができる。				
2）各種運動・スポーツの特性を理解し、様々な実践方法を説明できる。				
3）目的や発育発達に沿った環境づくりや支援法を考え、説明できる。				
4）自分の関心に応じて資料を収集し、整理して発表することができる。				
授業の概要				
本講義では、幼児期における運動・スポーツを視点に、各種運動の特性を理解し、運動の目的や幼児期の発達段階に沿った運動・スポーツの環境づくりや支援法について検討し、幼児体育、幼児スポーツのあり方を探る。				
授業計画				
第1回：オリエンテーション、幼児期の運動・スポーツのイメージについて				
第2回：子どもの運動・スポーツの現状と課題について				
第3回：子どもの発育・発達と運動				
第4回：子どもの生活と運動・スポーツ				
第5回：子どもの運動・スポーツの必要性、役割と効果				
第6回：保育現場における運動・スポーツと幼児体育				
第7回：子どもの運動・スポーツ指導上の留意事項				
第8回：子どもの運動・スポーツの安全管理と応急処置				
第9回：運動の特性と遊びの環境づくり①（ルールの工夫）				
第10回：運動の特性と遊びの環境づくり②（用具の工夫）				
第11回：運動の特性と目的に沿った支援法の研究①（ルールのある遊び）				
第12回：運動の特性と目的に沿った支援法の研究②（用具を用いた遊び）				
第13回：運動の特性と目的に沿った支援法の研究③（集団遊び）				
第14回：幼児期の運動・スポーツと生涯スポーツ				
第15回：まとめ				
定期試験：実施しない				
テキスト				
テキストは使用せず、必要に応じて資料を配布				

参考書・参考資料等

岩崎洋子・吉田伊津美・朴淳香・鈴木康弘「保育と幼児期の運動あそび」萌文書林

文部科学省「幼稚園教育要領解説」フレーベル館

内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」

フレーベル館

厚生労働省「保育所保育指針解説書」フレーベル館

学生に対する評価

授業の振り返りレポート（50％）、発表（50％）

授業科目名： 学校保健体育支援 実践研究	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 6単位	担当教員名： 栗原淳、中島慎一、 松本大輔
			担当形態： クラス分け・単独
科 目	教育実践に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標			
中学校及び高等学校学習指導要領に示された保健・保健体育の学習内容と、保健体育教員として求められる資質能力について健康科学やスポーツ科学の理論と学校現場での実践を関連させて理解を深めるとともに、自己の研究課題を明確にすることができる。授業実践に関しては以下の到達目標を目指す。 ①中高における保健・体育の目標・内容の全体構造と系統性の理解 ②楽しい保健学習、楽しい体育学習の考え方と進め方の考察 ③課題解決能力（ライフスキル）の習得と授業への活用ができる ④電子黒板やタブレット端末などICTを活用した授業実践ができる			
授業の概要			
この授業では、中学校「保健体育（保健分野・体育分野）」及び、高等学校の「保健」・「保健体育」の授業支援や、授業実践を実際に学校現場で行いながら、自らの実践的指導力に関する課題を見出し、修士論文に関連した調査研究や介入研究等の活動を通して多面的・多角的に考察し、保健体育の授業実践に関わる課題解決に関する知識やスキルを身に付けることをねらいとする。 具体的には受講者の希望する校種、中学校、高等学校いずれかで5週間程度のフィールドワークをとおして実践研究を行う。フィールドワークは修士論文の方向に合わせ、保健あるいは体育の教科等指導に関する内容を検討し、教材研究の進め方や授業づくり、授業評価等について、学校のメンター教員にも相談しながら計画を立て、実施後は考察内容とまとめ報告（発表）を行う。尚、受講生が実践研究を行う教科指導の場と研究分野が適合する教員が指導を担当する。			
授業計画			
【事前指導】①オリエンテーション			
【事前指導】②実践研究目的の設定			
【事前指導】③実践研究先の検討と選定			
【事前指導】④実践研究計画の設定			
※10日間（1日8時間を基本とする）実践研究の実際			
【事中指導】経過報告及びメンター教員を含めたカンファレンス、今後の計画確認			
※15日間（1日8時間を基本とする）実践研究の実際			
【事後指導】①実践研究成果のまとめ資料の検討			
【事後指導】②実践研究報告（発表）資料の確認と修正			

【事後指導】③実践研究の報告（発表）
テキスト 中学校学習指導要領保健体育編（文部科学省）2021年3月文部科学省告示 高等学校学習指導要領保健体育編（文部科学省）2021年3月文部科学省告示
参考書・参考資料等
学生に対する評価 授業支援での事前準備と支援の実際（40％）及び、メンターの評価（20％）、最終報告（40％）で総合的に評価する。